〈校訓〉



致力

学校教育目標 心豊かでたくましく生きる子

めざす子ども像 自ら学ぶ子・思いやりのある子・明るく元気な子

年度当初は特に 命を守りきる行動がとれる子

> やっと、一斉登校に なったより

学齢期に学校で過ごすことの大切さを実感

6月1日に学校生活を再開し、約1か月が経ちました。5月は分散登校でしたので、6月になってから、やっと、一斉 登校で、みんなと出会えるようになりました!!

3 密を避ける生活様式(検温・手洗い・換気の徹底、身体的距離の確保・下校後の施設消毒など)を継続しつつ、段階 的に集団生活を再開するということで、8 日から給食が始まり、15 日から通常日課で過ごしています。 「待ってました」とば かりに、晴れた日の休み時間には、たくさんの子どもたちが、運動場やピロティ等でいきいきと遊んでいます。昨年度まで は、ドッジボールやサッカーをして遊ぶ子どもたちが多かったのですが、制約がある今年は、ブランコ・シーソー・鉄棒・上 り棒・雲梯・ジャングルジムなどの遊具で遊ぶ子が大変多く、遊んだ後の手洗いも、ほぼ合格点です。友達と関わりなが ら、のびのびと過ごす子どもたちの姿を眺めながら、「学齢期に学校で過ごすことの大切さ」を改めて実感しています。

(学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル) 感染症予防薬を尽くすこと と みどもの使やかな学習を保障すること

「学校の新しい生活様式」(文部科学者 2020.6.16 Ver2)による学校に!

国内外の感染状況を見据えると、新型コロナウイルス感染症については長期的な対応が求められることが見込まれる 状況です。こうした中でも、持続的に児童生徒の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染およびその拡 大リスクを可能な限り低減した上で学校運営を継続していく必要があり、文部科学省からは、学校運営の指針として示さ れました。「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準によると、滋賀県は「感染レベル1」なので、次のようになります。

- ・【身体的距離の確保】・・・「学級内で最大限の間隔を取る」として、1 クラスに 40 人が入って授業を受ける図が示されました。
- ・【感染リスクの高い教科活動】・・・「適切な感染対策を行った上で実施する」となり、見合わせていた学習も実施可能になります。 具体的に「実施可能になる学習」は、対面式となるグループワーク、一斉に大きな声で話す活動、理科における近距離 での実験や観察、音楽科の合唱やリコーダー・鍵盤ハーモニカの管楽器演奏、図画工作科における共同制作、体育科 における児童が密集する運動、家庭科における近距離での調理実習等です。つまり、「適切な感染対策を行った上で、 できる限り、通常の教育活動を再開するということです。

そこで、本校でも、感染予防の対策を講じたうえで、今まで控えていた学習内容のなかから、グループワーク、合唱や 器楽演奏、理科室での実験や観察、委員会活動、ボールを使ったゲーム等を始めていきます。

特に、7月は、新しい生活様式を始めながら、リスクを低減するための過ごし方や遊び方を子どもたち自身に考えさせ つつ、「自分や友達の命(安全)を守る力」を育てていきます。

- ・「新しい生活様式」に合わせて、どの学級もが、「第1音楽室・第2音楽室・理科室・大多目的教室」を使えるようにします。
- ・小林加奈子教諭が、学校全体の職務をできる体制に戻します。

【1年生・6年生】・・・本来の教室へ戻って学習する。

【戻す時期】・・・・・1年生のローテーションが、一巡し終わった後、7月13日(月)

めまぐるしく変わる世の中の状況と学校全体の教育を総合的に鑑みて、常に、その時点での最善策を検討してすすめ ております。どうかご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

(校長 井上照美)

学校生活が始まりました!(学年ごとの授業風景)

一 年 生







二年生







三年生







四年生







五年生







着地では、足を前に・・・





校舎を写生

6月 コロナ感染症予防対策をしつつ再開した学校生活のさまざまな場面をご紹介します









